

巻頭言



All roads lead to Rome

(公財)日本植物調節剤研究協会 評議員
協友アグリ(株)取締役常務執行役員 開発部長 川名敏夫

「All roads lead to Rome」全ての道はローマに通ず。

いつの頃から忘れたが私が好きになった言葉の一つである。直接的には、かのローマ帝国が隆盛を極めたときの象徴的な言葉であり、広大な領土のどこからでもローマに道は通じているとの意味であるが、「真理は一つである」あるいは「ある目的を遂げるにも手段はいくらでもある」との意味の諺としても用いられる。

仕事やプライベートで、努力したつもりでもうまくいかずに落ち込んだりしたときにこの言葉を自分に言い聞かせている。“道はひとつではない。何とかなるさ”

最近では時間がなくて遠のいているが、私は物を作るのが好きである。これまでテーブルやキャビネット等多数の家具も作った。自分で作る利点は、既製品にはない規格や機能を持つオンリーワンを作れることである。もちろん企画、設計、材料探し、切断・組み立て、塗装まで全てで行う。

これまでも一生懸命やったつもりでも失敗は発生し、その原因がどこにあったのか検証すると大抵の場合、「まあこれでいいか」に起因している。具体的な例を挙げると、当たり前であるがテーブルには4本の足があるが、この4本の足を同じ長さで直角に切断することは意外と難しい。数ミリの違いによりテーブルがガタつくことになり、これを直すためには足を短くして揃えるしかなく、

そうすると予定の高さより低くなったテーブルができてしまう。製作工程(プロセス)で手を抜いた(そのとき、自身は手を抜いたとの認識はないが)結果は、嫌になるほどはつきりと仕上がりが出る。後の祭りとなるが、しっかりやっておけば良かったと思う。

仕事でもそう思うことが多い。一人一人が手を抜かずベストを尽くせば良い仕事ができるはずであるが・・・。

昨年、久しぶりに物づくりを始めた。前の年の初冬に、あれこれ検討したうえで4種類の生食用ぶどうの品種を選定して購入した。ぶどうの定植は春先に行うため、とりあえず仮植えした。では、どのような栽培が良いのか。素人が趣味で温室を建てぶどう栽培用の棚を作るのは荷が重い。いろいろ検討し垣根状の棚を作り、その垣根に雨よけする栽培方法があることを知った。このためのキットはあるが、自ら作成するためあれこれ考えを巡らせ設計し、ホームセンターをめぐり市販されている建設資材や農業資材の活用できそうなものを揃えた。単管パイプ、アンカー、ターンバックル、クランプ、軽量ブロック、トマト用雨よけセット、架線等。

設計図を描き資材も揃え、後は自分に妥協せず最後までできるかである。その上でうまくいかなかった場合は、「All roads lead to Rome」，“道はひとつではない、何とかなるさ”である。